

株式テーマセミナー
**データセンター（DC）は世界で爆増、
消費電力も加速度的に増加**

2025年3月5日

岡三証券 投資戦略部
シニアストラテジスト 佐藤 一樹
シニアストラテジスト 大下 莉奈

目次

Topic 1.米国

背景分析：米国のデータセンター市場と電力需要は今後も急拡大

背景分析：米IT大手はAIインフラ網構築のため巨額投資を継続

背景分析：トランプ政権のAIプロジェクトや規制緩和も恩恵に

背景分析：次世代原子力発電に投資機運、巨額の投資マネーを吸収

注目銘柄①:オラクル（ORCL 米国株）

注目銘柄②:GEベルノバ（GEV 米国株）

注目銘柄③:コンステレーション・エナジー（CEG 米国株）

Topic 2.日本

背景分析：日本でもデータセンター関連投資が本格化

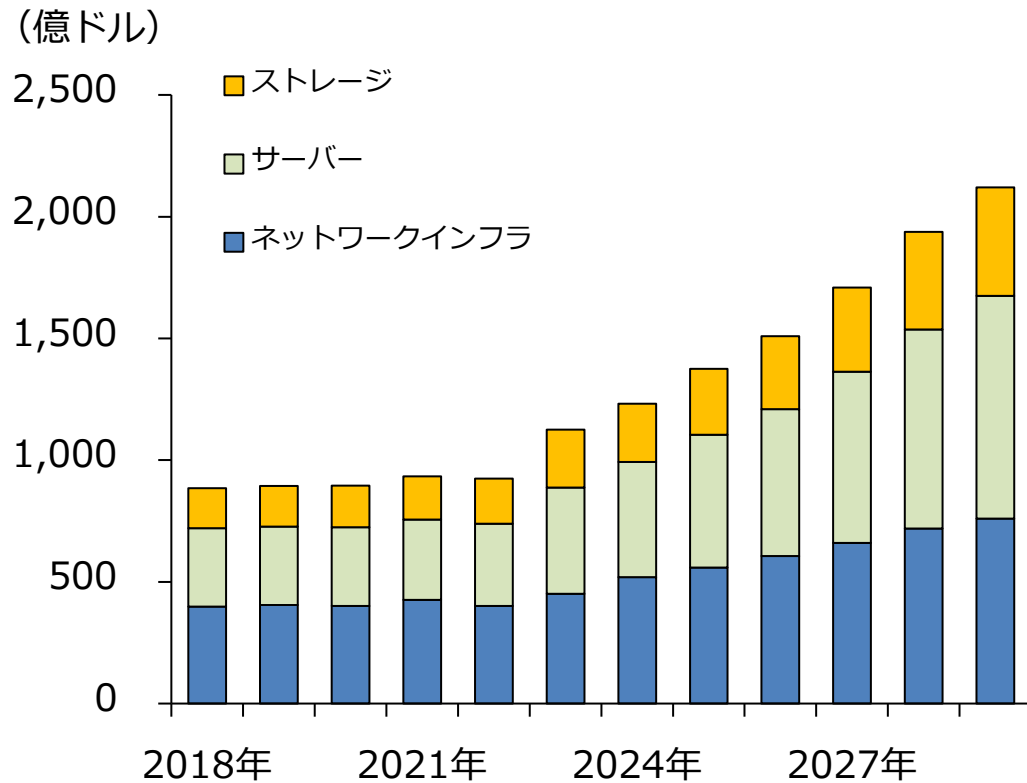
注目銘柄①:日立製作所（6501）

注目銘柄②:フジクラ（5803）

注目銘柄③:日本電信電話（9432）

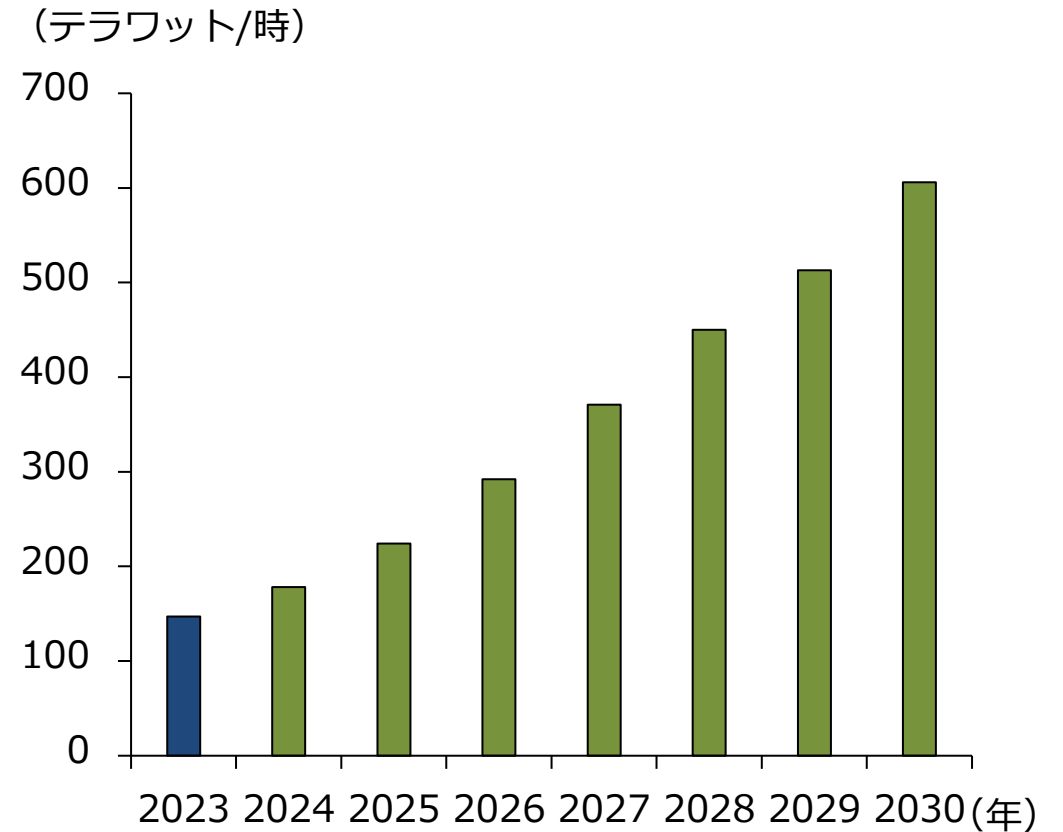
背景分析：米国のデータセンター（DC）市場と電力需要は今後も急拡大

米国のデータセンター（DC）市場規模の見通し



Statistaのデータを基に岡三証券作成
2024年7月現在 ※全て推定・予測値

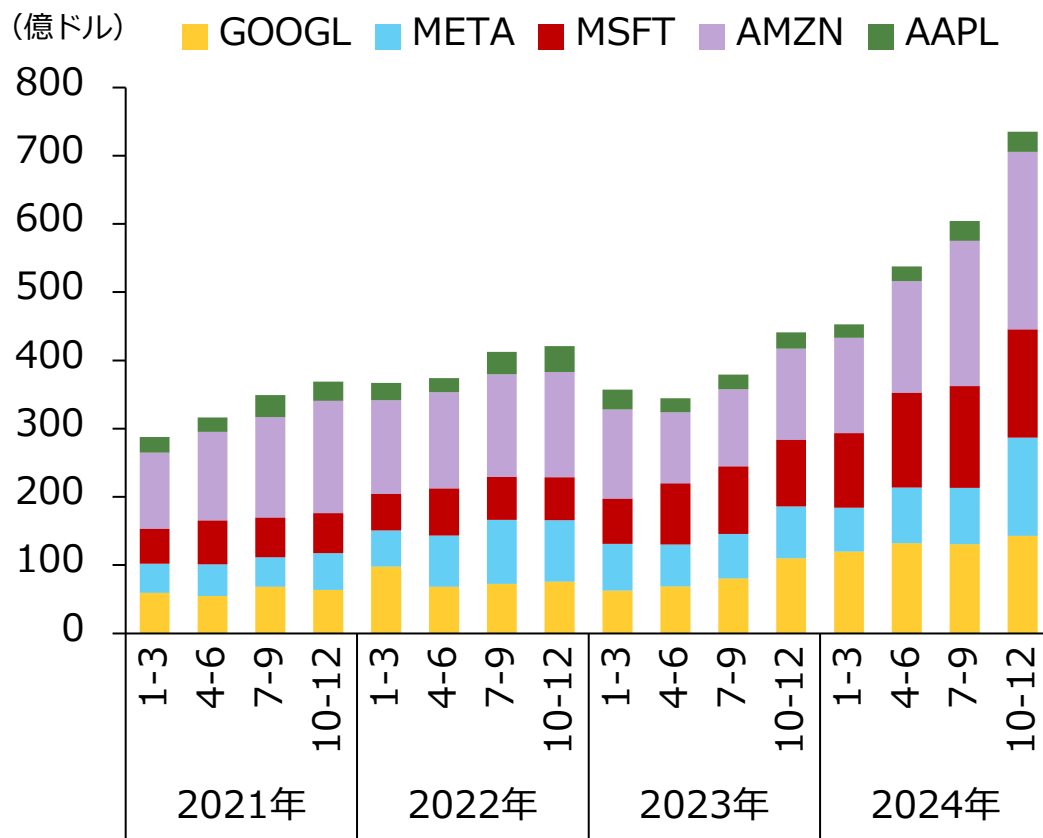
米国のデータセンター（DC）電力需要の見通し



※2024年以降は予測値
Statistaのデータを基に岡三証券作成 2024年9月現在

背景分析：米IT大手はAIインフラ網構築のため巨額投資を継続

IT大手5社*の設備投資額の推移



出所：LSEG Workspace 作成：岡三証券

*IT大手5社はアップル、アマゾン・ドット・コム、アルファベット、メタ・プラットフォームズ、マイクロソフト

中国の軍事費を超える設備投資計画

- ・ **マイクロソフト (MSFT)**
今年度の設備投資額 (会社計画) ⇒ **約800億ドル**
- ・ **メタ・プラットフォームズ (META)**
25/12期通期の設備投資額 (会社計画) ⇒ **最大650億ドル**
- ・ **アルファベット (GOOGL)**
25/12期通期の設備投資額 (会社計画) ⇒ **約750億ドル**
- ・ **アマゾン・ドット・コム (AMZN)**
25/12期通期の設備投資額 (会社計画) ⇒ **約1,000億ドル**

⇒上記主要4社の**設備投資額** (会社計画)

約3,200億ドル

⇒中国の軍事費の**約2,960億ドル** (2023年) を超える規模。 ※SIPRI (ストックホルム国際平和研究所)

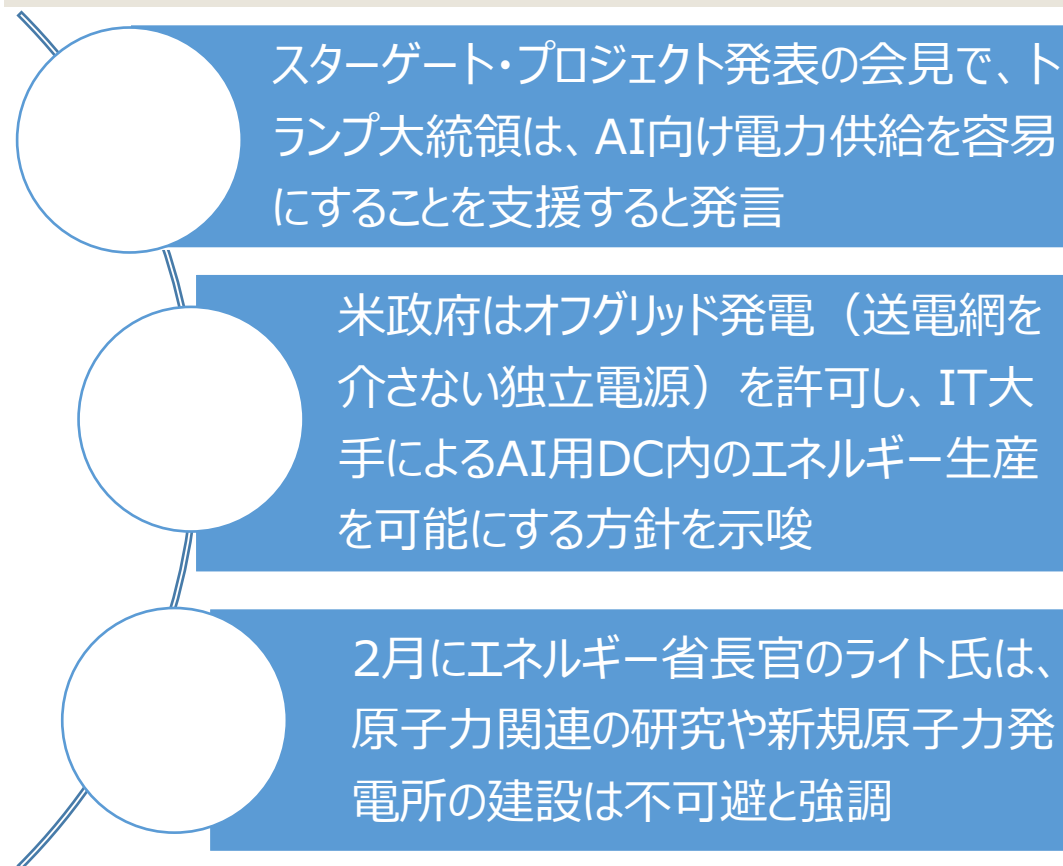
出所：各種資料 岡三証券作成

背景分析：トランプ政権のAIプロジェクトや規制緩和も恩恵に

スターゲート・プロジェクトの概要

スターゲートとは	民間企業による米国でのAI開発事業への巨額投資計画
投資計画	初年度に1,000億ドル、4年間で5,000億ドル（データセンター（DC）などのAIプロジェクトに投資）
初期出資者	ソフトバンクグループ、米オープンAI、米オラクル、MGX（アラブ首長国連邦（UAE）アブダビ首長国のテクノロジーに特化した投資会社）
初期テクノロジーパートナー	英アーム・ホールディングス、米マイクロソフト、米エヌビディア、米オラクル、米オープンAI
システム構築	米オラクル、米エヌビディア、米オープンAI

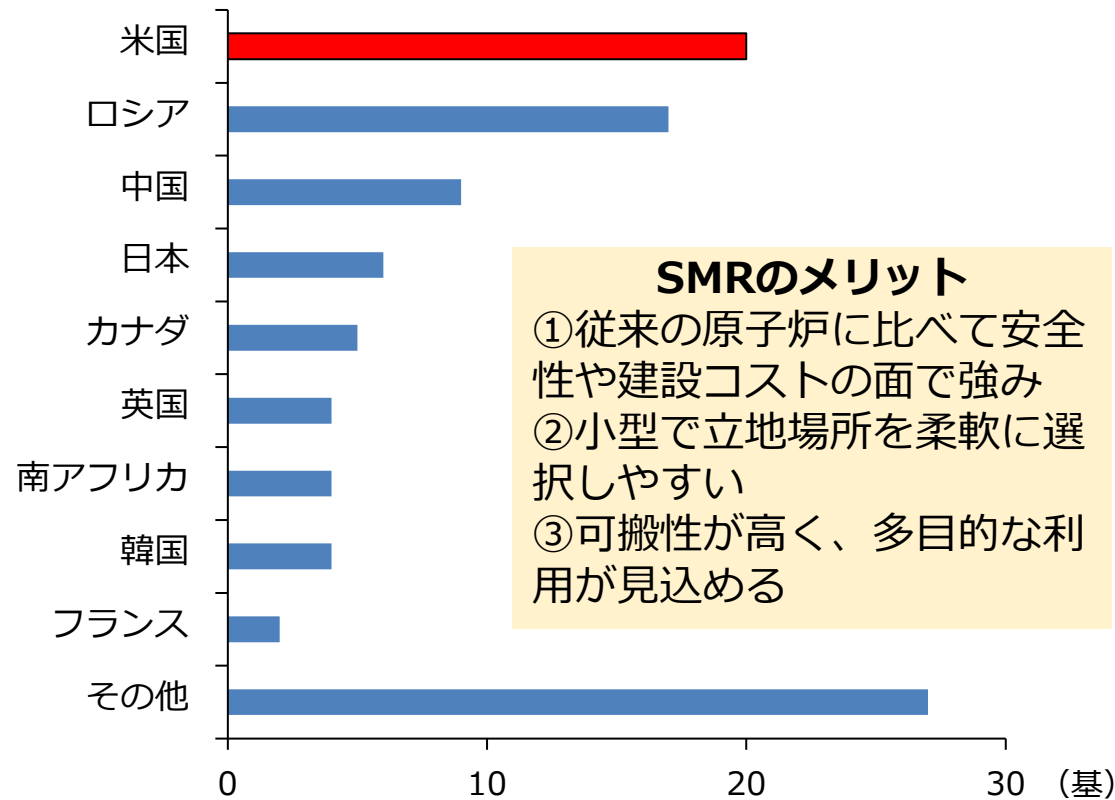
米政権はAI用データセンター（DC）向け電力増強を約束



出所：各種資料 岡三証券作成

出所：各種資料 岡三証券作成

2024年に世界で開発中の 小型モジュール原子炉（SMR）設計数（国別）

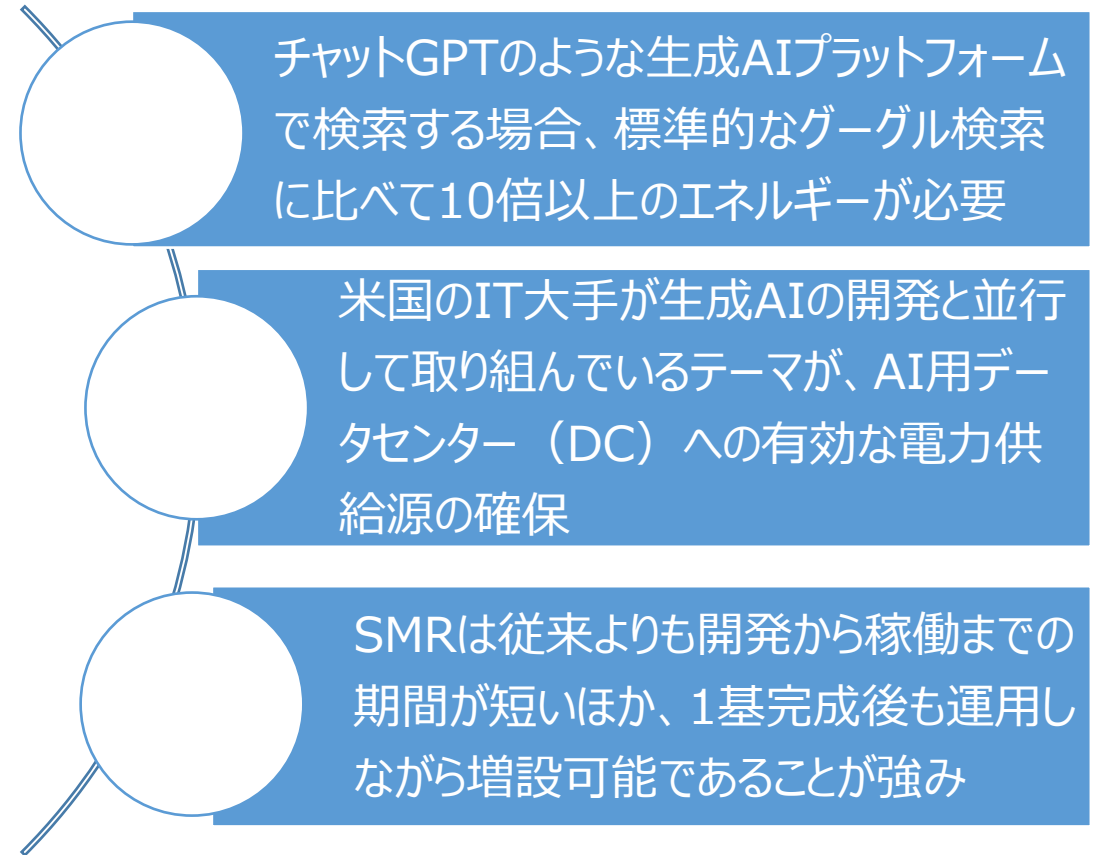


SMRのメリット

- ①従来の原子炉に比べて安全性や建設コストの面で強み
- ②小型で立地場所を柔軟に選択しやすい
- ③可搬性が高く、多目的な利用が見込める

Statistaのデータを基に岡三証券作成 2024年5月現在

AI用（DC）への 電力供給源確保として期待されるSMR



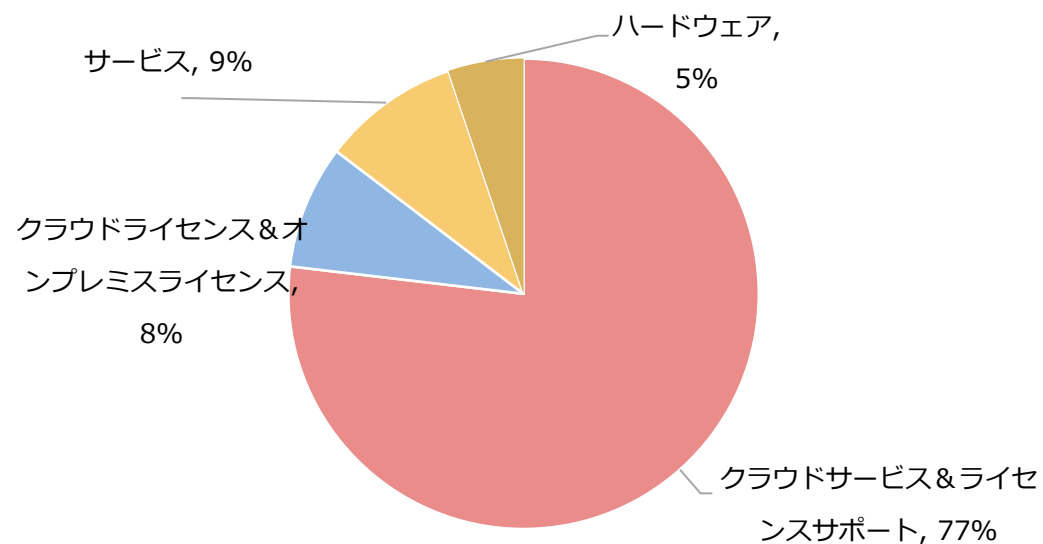
出所：各種資料 岡三証券作成

注目銘柄①： オラクル（ORCL 米国株）

注目ポイント

1. 世界2位のソフトウェア会社、「スターゲート」の初期出資者かつ初期テクノロジーパートナーの1社
2. データセンター（DC）事業にも注力、3基の小型モジュール式原子炉（SMR）を用いたDCの建設を計画
3. クラウドサービス「Oracle Cloud Infrastructure（OCI）」は生成AIトレーニングで存在感を高めている

▼事業別の売上高構成比（25/5期2Q）



四捨五入の関係上、合計は必ずしも100%とはならない
出所：LSEG Workspace 作成：岡三証券

▼株価推移（週足）



出所：LSEG Workspace 作成：岡三証券 2月28日現在

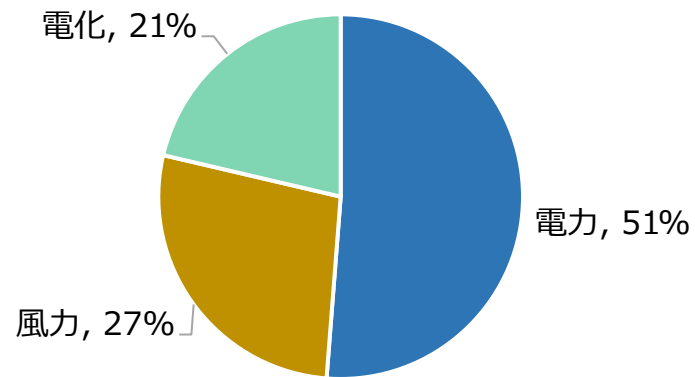
注目銘柄：

注目銘柄②：GEベルノバ（GEV 米国株）

注目ポイント

1. 旧GE（ゼネラル・エレクトリック）の分社化により、2024年に分離上場
2. 原子力発電、ガス発電、水力発電向け設備などを提供
3. 日立製作所（6501）と協力し、小型モジュール原子炉（SMR）の商業化を手掛ける

▼セグメント別売上高構成比（24/12期）



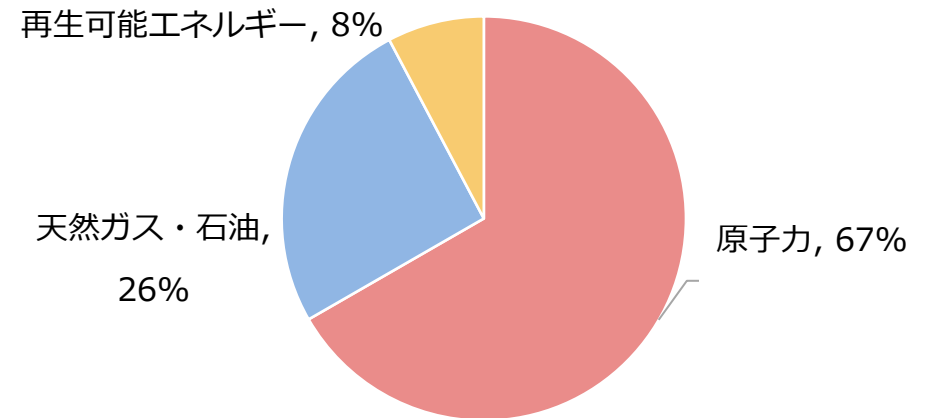
四捨五入の関係上、合計は必ずしも100%とはならない
セグメント間の消去・全社項目を除く 出所：会社資料 作成：岡三証券

注目銘柄③：コンステレーション・エナジー（CEG 米国株）

注目ポイント

1. 米国最大の独立系原子力発電事業者
2. スリーマイル島の原子力発電所を再稼働させる計画
3. 米マイクロソフトのデータセンターに電力を供給する予定

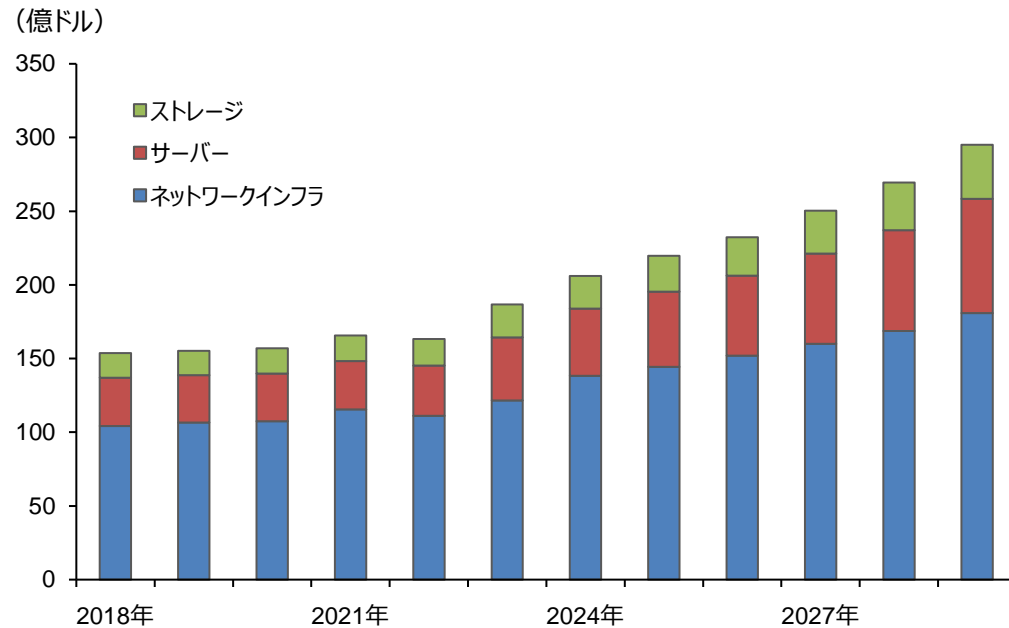
▼保有発電資産容量 燃料別比率



四捨五入の関係上、合計は必ずしも100%とはならない
再生可能エネルギーは風力、水力、太陽光を含む
出所：会社資料 作成：岡三証券 2023年末現在

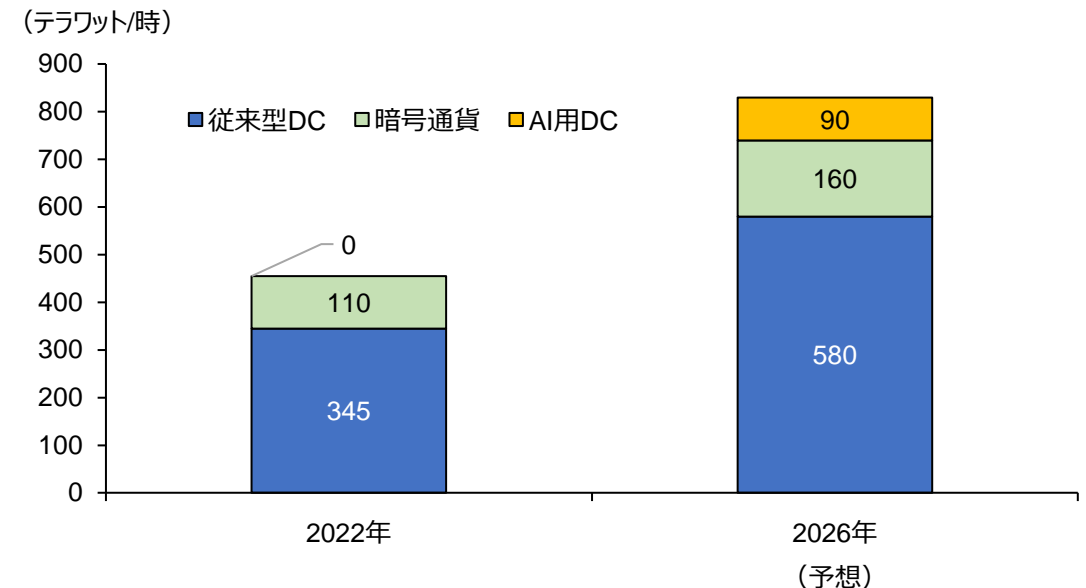
背景分析：日本でもデータセンター（DC）関連投資が本格化

日本のDC市場規模の推移



Statistaのデータを基に岡三証券作成 2024年1月現在
※全て推定・予測値

世界の電力需要予測 (従来型DC、暗号通貨、AI用DC)



Statistaのデータを基に岡三証券作成 2024年4月現在

主な日本のデータセンター(DC)関連銘柄

	企業（銘柄コード）	ポイント
投資	ソフトバンクG（9984）	米オープンAIや米オラクルなどと、4年間で5,000億ドルの対米AI投資を目指すと発表（スターゲート・プロジェクト）
	ディスコ（6146）	25/3期は、生成AI向けの高性能半導体の需要拡大を追い風に製造装置販売が増加する見込み
半導体 製造装置	TOWA（6315）	生成AI向け半導体など高性能半導体向けにモールドング装置の需要が拡大中
	ローツエ（6323）	25/2期は、米国向けやアドバンスドパッケージ用装置の販売が好調に推移する見込み
	アドバンテ（6857）	高性能の半導体の検査装置を展開しており、生成AI向け半導体の開発から量産まで引き合いが強い
半導体 部材	味の素（2802）	CPU向け層間絶縁材料の「味の素ビルドアップフィルム」が生成AI向けに販売好調
	日東紡（3110）	半導体パッケージ基板やデータセンター向けに「スペシャルガラス」の需要が拡大中
	レゾナックHD（4004）	AI向け半導体の基幹部品であるHBM(広帯域メモリー) 向けの絶縁材料などを手掛ける
	応化工（4186）	当社が手掛けるフォトレジストなどの製品が、生成AI用途を含む最先端分野でシェアを拡大中
	HOYA（7741）	半導体市況の回復と共に半導体チップの回路原版を形成するEUVブランクス需要が拡大中
ネット ワーク 機器	古河電（5801）	光ファイバケーブルで世界トップクラスの市場シェアを誇る
	住友電（5802）	光ファイバを手掛けるほか、自動車用ワイヤーハーネスで世界大手の一角を占める
	フジクラ（5803）	光ファイバケーブルに強みを持ち、超多心ケーブルから少心ケーブルまで豊富なラインアップ
	SWCC（5805）	通信・産業用途向けケーブルのほか、自動車向けワイヤーハーネスなどを手掛ける
電力・ 送配電	高砂熱（1969）※	空調設備工事業界のリーディングカンパニー。省エネ空調システムなどに強みを持つ
	日立（6501）	子会社の日立エナジーを通じ、送配電事業などを展開する
	富士電機（6504）	パワーエレクトロニクス機器やパワー半導体など、電力制御に関連した製品を提供する
	三菱重（7011）	ガスタービンのほか、原子力発電プラント等のエネルギー事業を展開する
	武蔵精密（7220）	ホンダ系の自動車部品メーカー。データセンター(DC)で非常用電源に使う蓄電装置も手掛ける

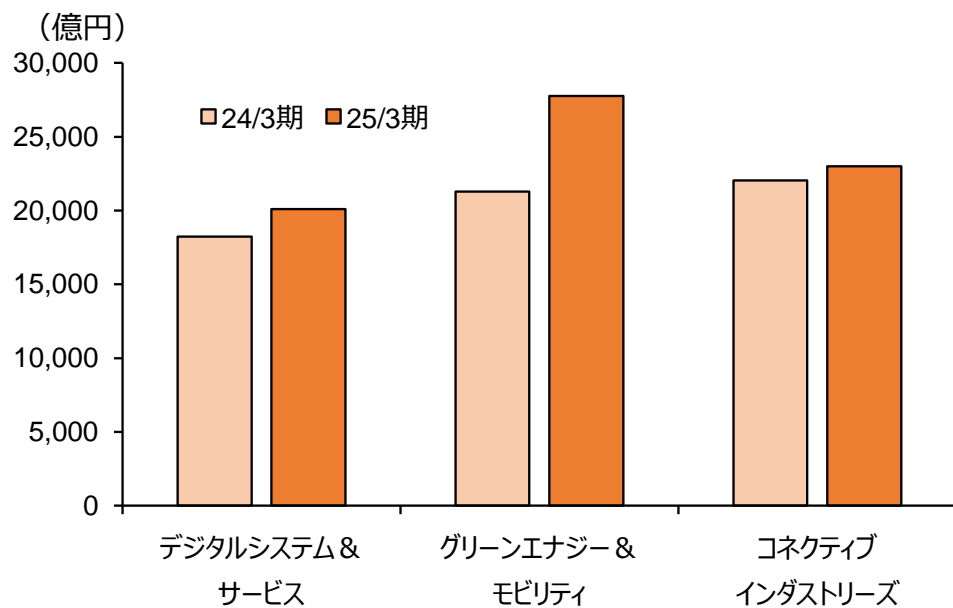
出所：各種資料 岡三証券作成
※高砂熱はファイナンス銘柄（3月3日現在）

注目銘柄①：日立製作所（6501 日本株）

注目ポイント

1. 社会インフラ分野に強みを持つ国内最大の産業用エレクトロニクス企業
2. 子会社の日立エナジーを通じて、再生可能エネルギーなどで需要拡大が見込まれる送配電分野にも注力
3. 25/3期3Q累計決算では、再生可能エネルギー関連案件や送電網設備の更新案件が好調に推移

▼セクター別売上高の推移（3Q累計）



出所：会社資料 作成：岡三証券

▼株価推移（週足）



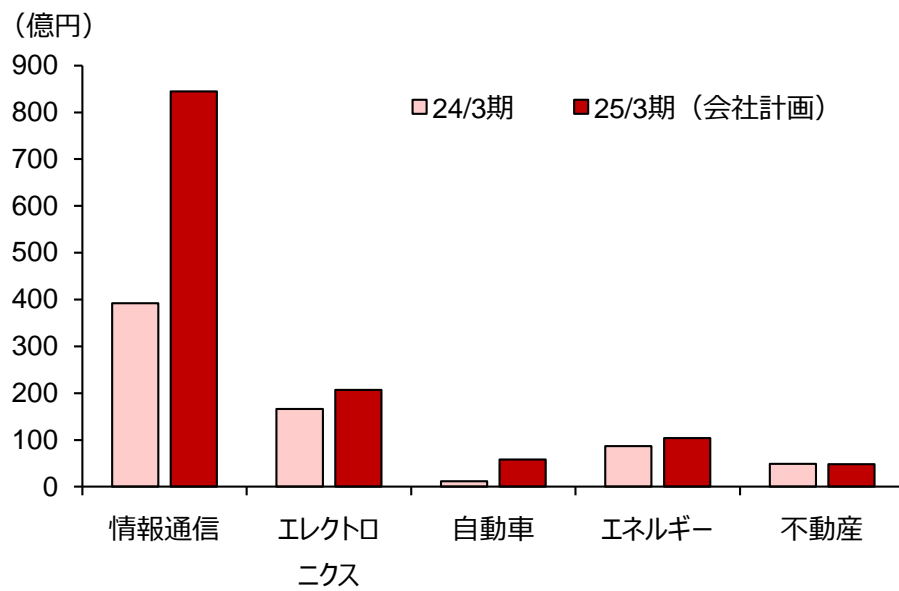
出所：QUICK 作成：岡三証券 2月28日現在

注目銘柄②：フジクラ（5803 日本株）

注目ポイント

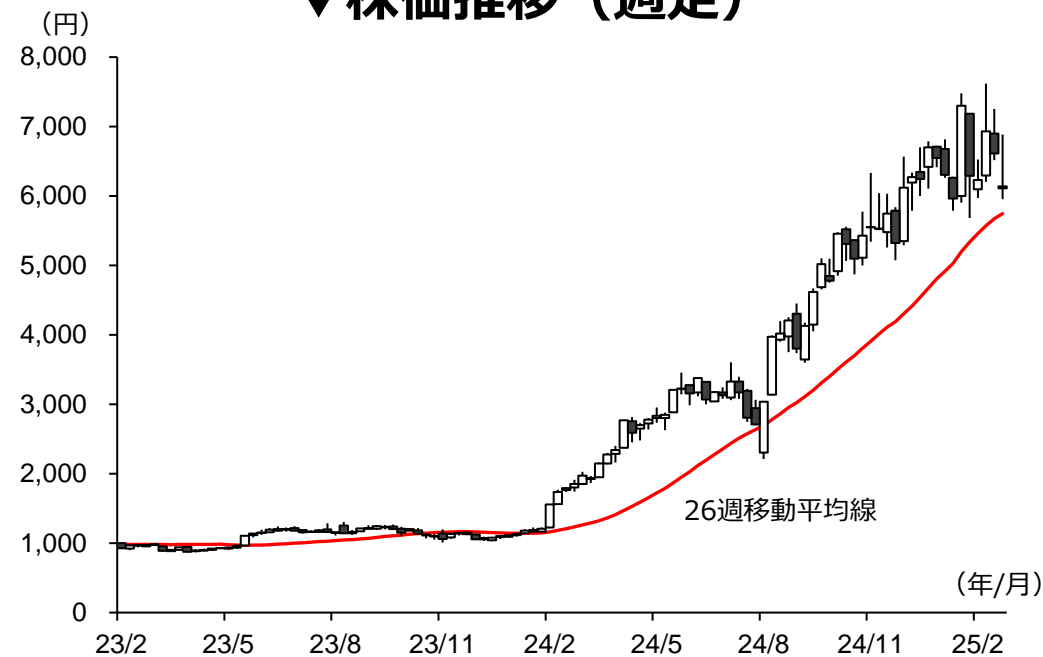
1. 電線大手の一角。光ファイバの接続に不可欠な「融着機」はシェア50%超で世界トップ
2. 細径高密度型光ファイバケーブル「SWR®/WTC®」や多心光コネクタ等の需要が急拡大中
3. 光ケーブルの製造装置の一部を米国に移設予定。米データセンター（DC）投資関連銘柄としても注目

▼主な事業セグメント別営業利益の推移



出所：会社資料 作成：岡三証券 25/3期会社計画は2025年2月10日現在

▼株価推移（週足）

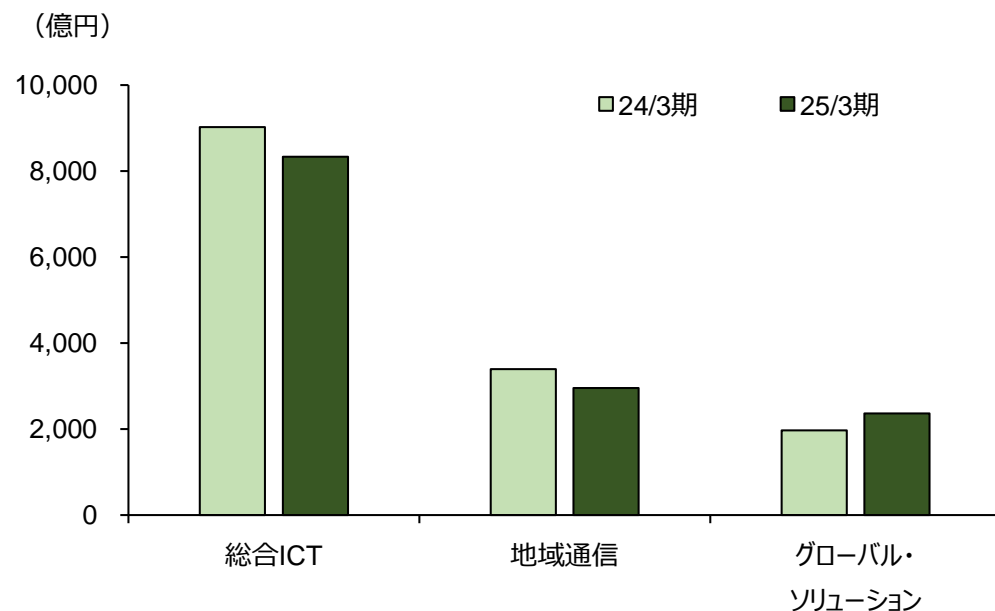


出所：QUICK 作成：岡三証券 2月28日現在

注目ポイント

1. 26/3期は、NTTドコモ、NTT東西の主要通信3社の業績回復などにより、成長路線への回帰を目指す
2. 消費電力を従来の100分の1に、伝送容量を125倍に伸ばす可能性を秘める「IOWN」に注目
3. 4月から開催される大阪・関西万博では、「IOWN」を活用したサーバーが展示される予定

▼主なセグメント別の営業利益（3Q累計）



出所：会社資料 作成：岡三証券

▼株価推移（週足）



出所：QUICK 作成：岡三証券 2月28日現在

重要な注意事項

免責事項

- ・本レポートは、投資判断の参考となる情報提供のみを目的として作成されたものであり、個々の投資家の特定の投資目的、または要望を考慮しているものではありません。また、本レポート中の記載内容、数値、図表等は、本レポート作成時点のものであり、事前の連絡なしに変更される場合があります。なお、本レポートに記載されたいかなる内容も、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。投資に関する最終決定は投資家ご自身の判断と責任でなされるようお願いいたします。
- ・本レポートは、岡三証券が信頼できると判断した情報源からの情報に基づいて作成されたものですが、その情報の正確性、安全性を保証するものではありません。企業が過去の業績を訂正する等により、過去に言及した数値等を修正することがありますが、岡三証券がその責を負うものではありません。
- ・岡三証券及びその関係会社、役職員が、本レポートに記載されている有価証券について、自己売買または委託売買取引を行う場合があります。岡三証券の大量保有報告書の提出状況については、岡三証券のホームページ(<https://www.okasan.co.jp/>)をご参照ください。

<有価証券や金銭のお預かりについて>

株式、優先出資証券等を当社の口座へお預かりする場合は、口座管理料をいただきません。外国証券(円建て債券および国内の金融商品取引所に上場されている海外ETFを除きます。)をお預かりする場合には、1年間に3,300円(税込み)の口座管理料をいただきます。ただし、電子交付サービスを契約している場合には、口座管理料は1年間に2,640円(税込み)とします。なお、当社が定める条件を満たした場合は外国証券の口座管理料を無料といたします。上記以外の有価証券や金銭のお預かりについては料金をいただきません。証券保管振替機構を通じて他社へ株式等を口座振替する場合には、口座振替する数量に応じて、1銘柄あたり6,600円(税込み)を上限として口座振替手續料をいただきます。

お取引にあたっては「金銭・有価証券の預託、記帳及び振替に関する契約のご説明」の内容を十分にお読みいただき、ご理解いただいたうえでご契約ください。

<株式>

- ・株式(株式・ETF・J-REITなど)の売買取引には、約定代金(単価×数量)に対し、最大1.265%(税込み)(手数料金額が2,750円を下回った場合は2,750円(税込み))の売買手数料をいただきます。ただし、株式累積投資は一律1.265%(税込み)の売買手数料となります。国内株式を募集等により購入いただく場合は、購入対価のみをお支払いいただきます。
- ・外国株式の海外委託取引には、約定代金に対し、最大1.518%(税込み)の売買手数料をいただきます。外国株式の国内店頭(仕切り)取引では、お客様の購入および売却の単価を当社が提示します。この場合、約定代金に対し、別途の手数料および諸費用はかかりません。
- ※外国証券の外国取引にあたっては、外国金融商品市場等における売買手数料および公租公課その他の賦課金が発生します(外国取引に係る現地諸費用の額は、その時々々の市場状況、現地情勢等に応じて決定されますので、その合計金額等をあらかじめ記載することはできません)。外国株式を募集等により購入いただく場合は、購入対価のみをお支払いいただきます。
- ・株式は、株式相場、金利水準、為替相場、不動産相場、商品相場等の変動による株価の変動によって損失が生じるおそれがあります。
- ・株式は、発行体やその他の者の経営・財務状況の変化およびそれらに関する外部評価の変化等により、株価が変動することによって損失が生じるおそれがあります。
- ・また、外国株式については、為替相場の変動によって、売却後に円換算した場合の額が下落することによって損失が生じるおそれがあります。
- ・REITは、運用する不動産の価格や収益力の変動、発行者である投資法人の経営・財務状況の変化およびそれらに関する外部評価の変化等により価格や分配金の変動し、損失が生じるおそれがあります。

<債券>

- ・債券を募集・売出し等により、または当社との相対取引により購入いただく場合は、購入対価のみをお支払いいただきます。なお、取引価格には、販売・管理等に関する役務の対価相当額が含まれております。
- ・債券は、金利水準、株式相場、為替相場、不動産相場、商品相場等の変動による債券価格の変動によって損失が生じるおそれがあります。
- ・債券は、発行体やその他の者の経営・財務状況の変化およびそれらに関する外部評価の変化等により、債券価格が変動することによって損失が発生するおそれがあり、また、元本や利子の支払いの停滞もしくは支払い不能の発生または特約による元本の削減等のおそれがあります。
- ・金融機関が発行する債券は、信用状況の悪化により本拠所在地国の破綻処理制度が適用され、債権順位に従って元本や利子の削減や株式への転換等が行われる可能性があります。ただし、適用される制度は発行体の本拠所在地国により異なり、また今後変更される可能性があります。

<個人向け国債>

- ・個人向け国債を募集により購入いただく場合は、購入対価のみをお支払いいただきます。個人向け国債を中途換金する際は、次の計算によって算出される中途換金調整額が、売却される額面金額に経過利子を加えた金額より差し引かれます(直前2回分の各利子(税引前)相当額×0.79685)。
- ・個人向け国債は、安全性の高い金融商品であります。発行体である日本国政府の信用状況の悪化等により、元本や利子の支払いが滞ったり、支払い不能が生じるおそれがあります。

<転換社債型新株予約権付社債(転換社債)>

- ・国内市場上場転換社債の売買取引には、約定代金に対し、最大1.10%(税込み)(手数料金額が2,750円を下回った場合は2,750円(税込み))の売買手数料をいただきます。転換社債を募集等によりご購入いただく場合は、購入対価のみをお支払いいただきます。
- ・転換社債は転換もしくは新株予約権の行使対象株式の価格下落や金利変動等による転換社債価格の下落により損失が生じるおそれがあります。また、外貨建て転換社債は、為替相場の変動等により損失が生じるおそれがあります。

<投資信託>

- ・投資信託のお申込みにあたっては、銘柄ごとに設定された費用をご負担いただきます。
お申込時に直接ご負担いただく費用:お申込手数料(お申込金額に対して最大3.85%(税込み))
保有期間中に間接的にご負担いただく費用:信託報酬(信託財産の純資産総額に対して最大年率2.254%(税込み))
換金時に直接ご負担いただく費用:信託財産留保金(換金時に適用される基準価額に対して最大0.5%)
その他の費用:監査報酬、有価証券等の売買にかかる手数料、資産を外国で保管する場合の費用等が必要となり、商品ごとに費用は異なります。お客様にご負担いただく費用の総額は、投資信託を保有される期間等に応じて異なりますので、記載することができません(外国投資信託の場合も同様です)。
- ・投資信託は、国内外の株式や債券等の金融商品に投資する商品ですので、株式相場、金利水準、為替相場、不動産相場、商品相場等の変動による、対象組入れ有価証券の価格の変動によって基準価額が下落することにより、損失が生じるおそれがあります。
- ・投資信託は、組入れた有価証券の発行者(或いは、受益証券に対する保証が付いている場合はその保証会社)の経営・財務状況の変化およびそれらに関する外部評価の変化等による、対象組入れ有価証券の価格の変動によって基準価額が変動することにより、損失が生じるおそれがあります。
- ・上記記載の手数料等の費用の最大値は、今後変更される場合があります。

<ファンドラップ>

手数料等の諸費用について

ファンドラップにおいて、直接お支払いいただく費用は、保有する、当社が運用方針に則して選定した国内公募投資信託(以下「投資対象ファンド」といいます。)の時価評価額に対して最大1.65%(年率・税込み)となります。投資対象ファンドは、ほかの投資信託を投資対象とするファンド・オブ・ファンズとなっており、実質的な費用は、投資対象ファンドの信託報酬に最終投資先の運用管理費用(信託報酬)等を加算した費用を間接的にご負担いただきますが、運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を示すことはできません。詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)をご確認ください。

主な投資リスクについて

投資一任契約とは、当事者の一方が、相手方から、金融商品の価値等の分析に基づく投資判断の全部または一部を一任されるとともに、当該投資判断に基づき当該相手方のための投資を行うのに必要な権限を委任されることを内容とする契約です。

- ・投資対象ファンドは、実質的に国内外の値動きのある有価証券等により運用を行いますので、株式相場、金利水準、為替相場、不動産相場、商品相場等の変動による組入れ有価証券の値動き等に伴い、投資対象ファンドの基準価額も変動します。これらの要因により投資対象ファンドの基準価額が下落し、損失が生じるおそれがあります。
- ・投資対象ファンドに実質的に組み込まれた株式や債券等の発行者の倒産や信用状況等の悪化により投資対象ファンドの基準価額が下落し、損失が生じるおそれがあります。

<信用取引>

信用取引には、約定代金に対し、最大1.265%（税込み）（手数料金額が2,750円を下回った場合は2,750円（税込み））の売買手数料、管理費および権利処理手数料をいただきます。また、買付けの場合、買付代金に対する金利を、売付けの場合、売付株券等に対する貸株料および品貸料をいただきます。委託保証金は、売買代金の30%以上で、かつ300万円以上の額が必要です。信用取引では、委託保証金の約3.3倍までのお取引を行うことができるため、株価の変動により委託保証金の額を上回る損失が生じるおそれがあります。

○2037年12月までの間、復興特別所得税として、源泉徴収に係る所得税額に対して2.1%の付加税が課税されます。

○金融商品は、個別の金融商品ごとに、ご負担いただく手数料等の費用やリスクの内容や性質が異なります。金融商品取引のご契約にあたっては、あらかじめ当該契約の「契約締結前交付書面」（もしくは目論見書及びその補完書面）または「上場有価証券等書面」の内容を十分にお読みいただき、ご理解いただいたうえでご契約ください。

ファンドラップの申込みの際には「投資一任契約書（兼契約締結時交付書面）」「サービス約款」等で契約内容をご確認ください。

○自然災害等不測の事態により金融商品取引市場が取引を行えない場合は売買執行が行えないことがあります。

【日本以外の地域における本レポートの配布】

・香港における本レポートの配布：本レポートは、香港証券先物委員会（SFC）の監督下にある岡三国際（亜洲）有限公司によって、SFCに規定される適格機関投資家（PI）に配信されたものです。本レポートに関するお問い合わせは岡三国際（亜洲）有限公司にお願いします。

・米国内における本レポートの配布：本レポートは岡三証券が作成したものであり、1934年米国証券取引所法に基づく規則15a-6に規定される米国主要機関投資家のみには配信されたものです。本レポートは、受領者及びその従業員が使用することを目的として配信しております。岡三証券は、米国内における登録業者ではないため、米国居住者に対しブローカー業務を行いません。本レポートのアナリストは米国で活動をしていないため、米国のリサーチ・アナリストとして登録されておらず、資格も有していません。したがって、当該アナリストは、米国金融規制機構（FINRA）規則の適用の対象ではありません。

・その他の地域における本レポートの配布：本レポートは参照情報の提供のみを目的としており、投資勧誘を目的としたものではありません。本レポートの受領者は、自身の投資リスクを考慮し、各国の法令、規則及びルール等の適用を受ける可能性があることに注意する必要があります。地域によっては、本レポートの配布は法律もしくは規則によって禁じられております。本レポートは、配布や発行、使用等を行うことが法律に反したり、岡三証券に何らかの登録やライセンスの取得が要求される国や地域における国民や居住者に対する配布、使用等を目的としたものではありません。

※本レポートは、岡三証券が発行するものです。本レポートの著作権は岡三証券に帰属し、その目的いかんを問わず無断で本レポートを複写、複製、配布することを禁じます。

岡三証券株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第53号

加入協会：日本証券業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会

（2025年1月改定）